

科目名	相談援助の理論と方法 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30	担当者	棧原弘司		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学などで教員		
対象学科・学年	福祉心理科 2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらい -①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる-のうち、この講義では、「相談援助の理論と方法」Ⅱとともに、主として②及び③について講義をすすめていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○		○		相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。	
	◎	○		○		相談援助の過程についての知識を説明できる。	
	◎	○		○		相談援助の過程における技術を使用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」I (株ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	「ソーシャルワークの理論と方法」とは何か -ソーシャルワーカーに求められる専門性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	地域を基盤としたソーシャルワークの視点 -ソーシャルワークにおける「地域基盤」の意味内容(アウトリーチを含む)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	相談援助過程(導入期) -意義・定義・目的と基本的視点、課題及び留意点				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	相談援助過程(アセスメント) -意義・定義・目的と基本的視点				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	相談援助過程(アセスメント) -情報収集の原則と内容				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	相談援助過程(アセスメント) -[演習] 情報収集ツールの理解と実際の利用				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
	7	相談援助過程(アセスメント) -ニーズの定義とその捉え方				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	相談援助過程(支援計画の作成) -意義・定義・目的、枠組みと展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	相談援助過程(支援計画の実施(モニタリング)) -意義・定義・目的、枠組みと展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	相談援助過程(評価) -意義・定義・目的、方法・留意点				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	相談援助過程(終結) -意義・定義・目的、方法・留意点				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	相談援助におけるクライアント理解の方法 -治療モデル				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	相談援助におけるクライアント理解の方法 -生活モデル				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	相談援助におけるクライアント理解の方法 -ストレスモデル				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト				教科書の該当範囲の復習をしておくこと	
評価方法	(1) 定期試験(筆記試験)を実施する。(2) 授業中に小テストを1回実施する。(3) 事例検討・発表を2回実施する。 * 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	○				10%
	宿題提出・発表等口	○	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	高齢者施設の立ち上げやケアマネジャーとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理科 2年						
授業概要	1年生で学んだ少子高齢社会の実情やそこにかかわる福祉専門職としての心構えを基礎に、高齢者施設実習を視野に入れ、より具体的な学びへつなげる。各論というべき介護保険制度について、その理念や成り立ち・介護認定やサービス種類を知り、ケアプラン作成のプロセスや概念を学ぶことで、他科目の理解へとつなげていく。また、終末期ケアや権利擁護等、社会福祉士・精神保健福祉士の専門領域について意識することで、人や命の尊さを再確認する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護保険制度の成り立ちや実情を知り、考えや意見を述べるができる。	
	○	○		○	○	生活の豊かさや平和について考え、相手の立場に立つ・尊厳の保持を意識して過ごすことができる。	
	○	○		○	○	高齢者が生きてきた時代を知り、その内容を今後の実習に活かせるようになる。	
	○	○		○	○	命の尊さや人権について学び・考え・行動することができる。	
	○		○	○		実習への心構えができる。	
テキスト・教材 参考図書	◎『よくわかる高齢者福祉』 直井道子・中野いく子 編 ミネルヴァ書房 ○時事話題 ○介護保険関係資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・アンケート記入			この科目の注意事項を伝えます		
	2	母の日に向けて、安心・安全・人々の生活を守るという事			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	3	高齢者の支援について 事例検討			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	4	現場で使用する専門用語 実習前に			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	5	介護保険制度のしくみ その1 制度の概要			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	6	介護保険制度のしくみ その2 要介護認定の流れ			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	介護保険制度のしくみ その3 サービスの内容・種類			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	認知症とは？ そのケアについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	ケアマネジメントの意義・価値について			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	ケアプラン・ケアマネジメントについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	地域包括ケアシステムについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	権利擁護について			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	高齢者虐待について			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	命 とは			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
15	まとめ 振り返り						
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※定期試験の解答欄に空欄があった場合は、1つにつき5点の減点とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト・レポート	◎	○				10%
	グループワーク・発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	マナーⅡ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	小川 智子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にて秘書及び研修講師		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年生						
授業概要	福祉従事者としての立ち居振る舞いについて考え、豊かな対人コミュニケーションの為の言葉遣いとマナーを身につける。実習先で誰からも好感・信頼感を持たれる実習生であるための、意識と知識の習得を目指す。社会人としての正しいマナー、慶弔の知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				実習生の品格について理解できる	
	○					電話応対や訪問時の正しい言葉遣いとマナーについて理解できる	
	○					好感・信頼感を高める言語コミュニケーションについて理解し活用することが出来る	
		○				実習中の正しいマナーや報告、連絡、相談について理解し活用することが出来る	
				○		愛される福祉従事者としての立ち居振る舞いについて理解し実行することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション、好印象の身だしなみ					
	2	好印象の上級マナーとは				予定項目について自分の考えをまとめておく	
	3	実習生の品格とは(電話、訪問のポイント)				予定項目について自分の考えをまとめておく	
	4	電話の掛け方と正しい言葉遣い(実習先への電話)				配布されたプリントを読んでおく	
	5	実習先訪問のマナーと電話練習				配布されたプリントを読んでおく	
	6	面接中の正しい立ち居振る舞い				配布されたプリントを読んでおく	
	7	実習中の話し言葉と敬語①				配布されたプリントを読んでおく	
	8	お礼状の書き方と郵便の知識				配布されたプリントを読んでおく	
	9	実習中の話し言葉と敬語②				配布されたプリントを読んでおく	
	10	言葉の選び方・表現の方法①				配布されたプリントを読んでおく	
	11	言葉の選び方・表現の方法②				配布されたプリントを読んでおく	
	12	指示の受け方と報告、連絡、相談				配布されたプリントを読んでおく	
	13	目上の人とのコミュニケーション				配布されたプリントを読んでおく	
	14	来客応対(ご案内と茶菓の接待 他)				配布されたプリントを読んでおく	
15	冠婚葬祭のマナーと総まとめ				配布されたプリントを読んでおく		
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	グループワーク・発表				◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会保障 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	15コマ	担当者	宮井浩志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	社会福祉士が相談援助を行う際に必要な社会資源及び諸制度等は社会保障制度に付随しているものである。社会保障制度を活用は必須条件であり、幅広い分野の知識を獲得する必要がある。この科目では、全体像の把握だけでなく各分野の制度の成り立ち、変遷も学んでいく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会保障制度の概要について説明することができる	
	○					社会保障に影響を与える日本情勢及び環境要因を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障の理解					
	2	社会保険と社会扶助の理解					
	3	社会保障の成立と福祉国家					
	4	日本の社会保障の範囲					
	5	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦前					
	6	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦後					
	7	高度経済成長期の社会保障					
	8	安定成長期の社会保障改革					
	9	バブル期以降の社会保障					
	10	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-家族の変化					
	11	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-ライフステージの変化					
	12	社会保障給付費からみた日本の社会保障の大きさ					
	13	社会保障給付費の推移					
	14	社会保障の財源					
15	全体のまとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	発言・質問・学習姿勢				◎		30%
履修上の注意							

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	原田 剛		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害者支援施設にて生活支援員		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	障害について考え、障害者がどのようなサービスや制度を必要としているのかを学ぶ。障害を理解し、制度を理解することの重要性を学び現場に必要な知識を身につける。 ①障害者の生活について理解する ②法律、制度等を理解する。 ③実際の支援について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				障害者福祉に関する法律制度等の概要を理解する。	
	○	○				福祉専門職(社会福祉士等)の役割や実際の業務等を理解する。	
				○		課題発表、グループワーク等を行い、障がいのある方の支援について理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版:障害者に対する支援と障害者自立支援制度</li> <li>ミネルヴァ書房:よくわかる障害者福祉</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	障害者を取り巻く社会情勢				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	障害者の生活実態				レポート課題について調べる	
	3	障害について考える・レポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	障害にかかわる法体系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	障害にかかわる法体系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	障害にかかわる法体系				レポート課題について調べる	
	7	法律、制度等に関するレポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	障害者自立支援制度①(障害者総合支援法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	障害者自立支援制度②(障害者総合支援法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	組織機関の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	専門職の役割と実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	障害者にかかわる専門職の価値・倫理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	多職種連携・ネットワーキング				レポート課題について調べる	
	14	障害者支援の現状と課題についてレポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	障害者支援における事例検討とサービス利用について/定期試験対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	①授業の中で小テストを4回実施。 ②レポート課題を3回(内容と発表で評価を行う) ③授業中に実施する小テストとレポート課題(提出・発表) 定期正試験で総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト	◎	◎				30%
	課題レポート	◎	◎		◎		10%
	発表	◎	◎		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助実習指導Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	馬場 一美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	相談援助に関わる知識と技術について具体的に理解し、実践的な技術を習得する。実際に実習を行う事業所についての理解を深め、実習を通し社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	目標		
	○	○		○	実習の目標としくみを理解し、実習施設に関する事前学習の成果を実習指導者へ説明できる。		
	○	○		○	実習計画書を実習指導者へ説明できる。		
	○	○	○	○	利用者の生活を支援する社会福祉士の役割と事業所の役割・機能を説明できる。		
	○	○		○	利用者との関係性、多職種連携について説明できる。		
○	○		○	実習を振り返り、ソーシャルワーカーとしての学びと今後の課題を説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	テキスト「相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト」、プリント等適宜						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	実習までのスケジュール確認・実習先発表			相談援助実習指導Ⅰを復習しておくこと		
	2	学生調査票作成			1年後期実習指導Ⅰ該当範囲を復習しておくこと		
	3	春休み期間中のボランティア実習振り返り			ボランティア報告書を事前に提出すること		
	4	学生調査票清書、出勤簿、評価表、誓約書等の書類作成			実習先の概要を事前に調べておくこと		
	5	実習施設について調べ学習・施設概要まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	実習計画書についての講義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	実習計画書作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	実習前面接・事前オリエンテーションについての説明			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	実習前面接・事前オリエンテーション準備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	記録の理解① 実習記録の目的と、日誌の提出方法			実習先へ持参する書類を確認しておくこと		
	11	実習前面接(学内面接)			面接後、振り返りシートを各自作成・提出すること		
	12	事前オリエンテーション(実習先訪問)			「オリエンテーションを終えて」を作成すること		
	13	記録の理解② 日々の目標設定、実習内容の記録方法について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	記録の理解③ 考察及び所感の書き方について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	A日程直前指導(実習における個人情報保護について)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	16	A日程振り返り、お礼状作成			A日程振り返りシートを作成しておくこと		
	17	A日程報告会			実習係は報告会の司会進行を担当		
	18	プロセスレコードの活用について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	特別講演:実習の概要、具体的なプログラム、実習生に期待すること			事前配布資料を確認しておくこと		
	20	特別講演:実習の概要、具体的なプログラム、実習生に期待すること			事前配布資料を確認しておくこと		
	21	アセスメントシートの作成方法			事前に配布する事例を読んでおくこと		
	22	アセスメント結果に基づいた支援目標・支援計画の策定方法について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	B日程の実習帰校日、実習終了後の流れについて			各巡回担当教員とスケジュール確認を行うこと		
24	実習帰校日			実習日誌と中間振り返りシートを記入しておくこと			
評価方法	①宿題・レポートを数回実施する。②実習前面接を実施する。③実習報告会を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出	◎	◎		◎		30%
	レポート	◎	◎				20%
	実習前面接		○	○	◎		20%
	実習報告会	◎	◎		◎		30%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合、相談援助実習を実施することができない。 本科目がD評価の場合、社会福祉士の受験資格取得不可となる。						

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松澤 秀樹		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	スクールソーシャルワーカー		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	児童の特性に着目しつつ、児童家庭を取り巻く諸問題や課題、関連する社会福祉制度、関係機関、施設や専門職の役割について学んでいく						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		現代社会と子ども家庭環境について理解する。	
	○	○		○		子どもと家庭への援助活動の実際について考察できるようになる。	
		○		○		子どもと家庭かかわる福祉・保健活動を理解する。	
	○	○		○		これからの支援方法について述べるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(中央法規出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	はじめに : ソーシャルワークと子ども家庭福祉			テキストの該当ページを読んでおく		
	2	1) 1~2 子どもの家庭福祉の理念と原理			テキストの該当ページを読んでおく		
	3	1) 3~4 子どもと家庭 権利擁護と福祉の発展			テキストの該当ページを読んでおく		
	4	2) 1~2現代社会と子ども・家庭とニーズ			テキストの該当ページを読んでおく		
	5	3) 子どもと家庭福祉の法制度①			テキストの該当ページを読んでおく		
	6	3) 子どもと家庭福祉の法制度②			テキストの該当ページを読んでおく		
	7	3) 子どもと家庭福祉の法制度③			テキストの該当ページを読んでおく		
	8	3) 子どもと家庭福祉の法制度④			テキストの該当ページを読んでおく		
	9	4) 1~2 子どもの貧困防止/母子保健			テキストの該当ページを読んでおく		
	10	4) 3 障害のある子どもと家族への支援			テキストの該当ページを読んでおく		
	11	4) 4~5 児童健全と保育			テキストの該当ページを読んでおく		
	12	4) 6~7 地域子育て支援とひとり親家庭の福祉			テキストの該当ページを読んでおく		
	13	4) 8~9 社会的養護/非行児童・情緒障害児			テキストの該当ページを読んでおく		
	14	4) 10~11 児童虐待対策/女性福祉とDV対応			テキストの該当ページを読んでおく		
15	5) 1~3 子ども家庭福祉援助活動			テキストの該当ページを読んでおく			
評価方法	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	正試験	○	○				90%
	授業態度	○			○		10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	精神疾患とその治療 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	東中園 聡		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院に医師として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神疾患の特徴と精神医療の実際、コメディカルスタッフとの連携等について学び、精神医療及び精神保健福祉に求められる役割について理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				代表的な精神疾患について特徴や症状について理解することができる	
	○	○				精神医療機関の治療構造及び専門病棟、ケアについて理解することができる	
	○	○				精神医療と精神保健福祉士との連携の具体的な内容について理解することができる	
	○	○				精神保健の視点から見た家族のアプローチについて方法及び対処を理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	精神疾患とその治療(中央法規出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	精神疾患について(概説)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	2	神経症性障害①			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	3	神経症性障害②			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	4	ストレス関連障害			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	5	エディプス・コンプレックス			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	6	パーソナリティ障害			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	7	生理的障害			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	8	うつ病			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	9	双極性障害			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	10	統合失調症①			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	11	統合失調症②			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	12	薬物療法			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	13	心理療法			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	14	社会療法			テキストの該当ページを読んでおくこと		
15	フランクルの医学的精神指導			テキストの該当ページを読んでおくこと			
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修することができない。						

科目名	精神保健の課題と支援 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	宗岡 誠		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科勤務医 35年		
対象学科・学年	心理社会福祉学科 2年						
授業概要	21世紀に入り、生活環境の変化が生じてきており、心身共に健康を維持し、増進していくかという課題がある。メンタルヘルスの重要性は、現在、誰もがしることとなり、うつ病と自殺、ストレス関連の心身症、アルコール依存症、薬物依存症、少子高齢化や、認知症などに対する、国の施策がそれを象徴している。また、児童虐待や、いじめ、犯罪被害者の心の傷やその支援者に生じるストレスへの援助、セクシャル・マイノリティー(LGBT)への理解や支援など、様々な課題がある。伝統や習慣、価値観の違いなど、地域や個人で様々な変化があり、そのことによるストレスや課題も生じている。テキストには、従来の精神疾患名(ICD-10)、DSM-5の疾患名も付記されている。テキストを熟読し、精神保健的な視点と最新の情報と知識をみにつける。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					精神保健の基本的概念を学び、他者に説明が行える。	
		○				精神保健の歴史と現在の状況について理解する。	
		○				精神保健を理解する上での、ライフサイクルの課題と危機を理解する。	
		○				精神保健の各課題の現状とその基本的考えかたを理解する。	
			○			精神保健において支援を行う上での基本的マナーを理解し自己向上を図る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 精神保健の概要と課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。DVD、PPTを使用	
	2	第1章 精神保健の概要と課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト	
	3	第2章 精神の健康とその要因				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用	
	4	第2章 精神の健康とその要因				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用	
	5	第2章 精神の健康とその要因				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト	
	6	第3章 精神への健康への関与とその支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用	
	7	第3章 精神への健康への関与とその支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト	
	8	第4章 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用	
	9	第4章 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用	
	10	第4章 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト	
	11	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用	
	12	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用	
	13	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト	
	14	第1章から第5章を振り返り総括				配布プリントを参照。質問にその場でこたえられる。グループワーク	
15	第1章から第5章を振り返り総括				配布プリントを参照。		
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				90%
	小テスト	◎	◎				5%
	グループワーク	◎	◎		◎		5%
履修上の注意	講義中の私語は、禁忌						

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神保健福祉士は、専門職として価値を基盤に捉え知識と技術を駆使した支援が求められる。授業では、「知識」として制度とサービスを学び、精神障害者の社会的復権のために活用して、相談援助を展開できるようにする。また、歴史的な変化の中で、制度とサービスがどのように変遷したのかを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		△		精神障害者の相談援助活動と法(精神保健福祉法)との関わりについて関心を持ち、理解することができる。	
	○	○		△		精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について把握し、利用者の現状や利用方法等について理解することができる。	
	○					精神障害者の支援において係る施設・団体・関連機関等について理解することができる。	
	○					医療観察法について理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 新・精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉に関する制度とサービス」中央法規 2. 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房 3. 配布資料(資料を綴じるファイルを用意)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明				教科書の精神保健福祉法の概要(第2章)を読み予習しておく	
	2	精神保健福祉法の成立まで(1)				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第2章)を読み予習しておく	
	3	精神保健福祉法の成立まで(2)				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第2章)を読み予習しておく	
	4	精神保健福祉法の成立まで(3)				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第2章)を読み予習しておく	
	5	精神保健福祉法(1) 法の意義、目的、精神障害者の定義				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第3章)を読み予習しておく	
	6	精神保健福祉法(2) 入院形態について1				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第3章)を読み予習しておく	
	7	精神保健福祉法(3) 入院形態について2				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第3章)を読み予習しておく	
	8	精神保健福祉法(4) 精神保健指定医				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第3章)を読み予習しておく	
	9	精神保健福祉法(5) 入院に係る届出について				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第3章)を読み予習しておく	
	10	精神保健福祉法(6) 精神医療審査会/入院患者の権利				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第3章)を読み予習しておく	
	11	精神保健福祉法(7) 精神保健福祉士の役割				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第3章)を読み予習しておく	
	12	精神保健福祉法(8) 精神保健福祉手帳				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第3章)を読み予習しておく	
	13	医療観察法の概要と実際(1)				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第8章)を読み予習しておく	
	14	医療観察法の概要と実際(2)				授業内容の復習及び、教科書の精神保健福祉法の概要(第8章)を読み予習しておく	
	15	前期 総括				前期授業を復習し、定期試験の学習を行う	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)宿題・レポート提出を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	小テスト	○	○		◎		20%
	宿題・レポート	○	○		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 精神保健福祉領域に関する様々な情報に興味を持つことが必要。精神障害者の置かれている状況や実際 の法律・制度について、歴史的な背景を含め理解することができるよう、授業に積極的に参加すること。 精神保健福祉援助実習で必要となる科目であることを認識しておくこと。						

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30	担当者	廣田 悦子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学教員		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	1、精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。2、精神科リハビリテーションの概念と構成およびチーム医療一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。3、精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神化専門療法を含む)の知識と技術および活用の方法について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		1、精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。	
	○			○		2、精神科リハビリテーションの概念と構成およびチーム医療一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。	
	○			○		3、精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神化専門療法を含む)の知識と技術および活用の方法について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I (中央法規 第4巻)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	2	・わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	3	・諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	4	・精神保健福祉士における活動の歴史				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	5	・精神障害者支援の理念				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	6	・精神保健医療福祉領域における支援対象				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	7	・精神障害者の人権				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	8	・精神科リハビリテーションの概念				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	9	・精神科リハビリテーションの理念				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	10	・意義と基本原則				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	11	・精神科リハビリテーションの構成と展開				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	12	・リハビリテーションのプロセス				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	13	・アプローチの方法				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	14	・疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション				テキストの該当部分を読んでおくこと	
15	前期振り返り				テキストの該当部分を読んでおくこと		
評価方法	① 出席率(国家試験受験に基づく法定授業なので出席は10回以上であること) ② レポート(指示された日時までに提出) ③ 態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	宿題・レポート	◎					10%
	授業態度・参加度				◎		10%
履修上の注意	1. 国家試験に必要な科目であるため、出席は10回以上である。 2. 授業中にスマホ等を机の上に置かない、触らない。授業に必要な場合は教員が指示する。						

科目名	交流ゼミⅡ-①					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	森田 康雅	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	福祉心理学科2年					
授業概要	福祉心理科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	2	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	3	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	4	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	5	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	6	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	7	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	8	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	出席状況				○	
						評価割合
						100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位取得ができない。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。					

科目名	教育カウンセリング論Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	富永 理恵		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	フリーランスでキャリアコンサルタント・心理カウンセラーとしてカウンセリングに従事		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	ここ数十年で、情報化社会は発達期から成熟期を迎えつつあり、「SNSを通してのコミュニケーション」が「生身のコミュニケーション」を凌駕しつつあり、「生身のコミュニケーション」より「デジタルコミュニケーション」に身を置く時間が長い。「合理的で便利」な反面、「生身の人間としてのつながり」が希薄になってきていることは否めない。そのような背景を踏まえ、かつては当たり前だった「対ヒトとどう関わっていくか」を改めて学んでいく。「基礎」の部分より「実践」を重視し、言語・非言語コミュニケーションのワークショップ、ロールプレイを主にするこ とで、「生身のコミュニケーション」を体感・実感させる。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		ピアヘルピング技法の「自己開示」を理解し日常で活用することができる。	
	○	○		○		ピアヘルピング技法の「リレーション」を理解し日常で活用することができる。	
	○	○		○		ピアヘルピング技法の「言語的技法」を理解し日常で活用することができる。	
	○	○		○		ピアヘルピング技法の「非言語的技法」を理解し日常で活用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	ピアヘルパーワークブック・同ハンドブック(日本教育カウンセラー協会 編)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・オリエンテーション(・ピアヘルパーⅠの振り返り・ピアヘルパーⅡの概要)					
	2	授業内の傾聴訓練で「自分のこと」を語るできるよう、ワークを通して「自分とは」を自分自身で知る					
	3	「自分を知る」①のグループシェアリング&全体シェアリング					
	4	・ピアヘルピングの言語的技法とは「受容」「繰り返し」「明確化」とは					
	5	・「支持」「質問」「とは					
	6	・技法を用いてのロールプレイング・グループシェアリング・全体シェアリング					
	7	・ピアヘルピングの非言語的技法とは「視線」「表情」「ジェスチャー」「身体接触」「声の質量」					
	8	・ピアヘルピングの非言語的技法とは「服装」「座り方」「時間厳守」「歩き方」「言葉遣い」「挨拶」					
	9	・技法を用いてのロールプレイング・グループシェアリング・全体シェアリング					
	10	・技法を用いてのロールプレイング・グループシェアリング・全体シェアリング					
	11	・面接の切り上げ方・私的感情・話が進展しないとき・抵抗・沈黙					
	12	・リファーマー・ケースワーク・コンサルテーション・ピアスーパージョン・具申・個別ヘルピング					
	13	・なおうそとするな、わかろうとせよ・ことばじりをつかまえるな、感情をつかめ・行動だけを見るな、ビリーフをつかめ					
	14	スキルを向上させる方法・さらなるスキルアップをはかる					
15	・ピアヘルピング技法の総復習・総合ロールプレイング						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業への参加状況(グループワーク時の発言)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	ワークショップ		○		○		50%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助実習						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	180時間	担当者	馬場 一美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者施設にて相談員		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	実習指導者による指導のもと、相談援助に係る知識と技術について实际的に学ぶ。2年次の6月～9月の間、主に高齢者施設等で180時間以上の配属実習を行う。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		相談援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等の体得をしている。	
	○	○	○	○		援助実習を通して、利用者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。	
	○	○	○	○		社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
	○	○	○	○		総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	(1) 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成					
	2	(2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成					
	3	(3) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成					
	4	(4) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワーメントを含む)とその評価					
	5	(5) 福祉・保健・医療に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際					
	6	(6) 社会福祉士としての職業倫理と法的義務への理解					
	7	(7) 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解					
	8	(8) 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際					
	9	(9) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解					
	10	(10) 相談援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。					
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習指導者の評価を含めて総合的に勘案する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	事前準備や事後提出	○	○	○	◎		50%
	実習	○	○	○	◎		50%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	スクールソーシャルワーク論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	笠木 順一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	スクールソーシャルワーカーとして勤務中		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	不登校や児童虐待などの問題に対し、学校現場において福祉的観点から支援を行うのがスクールソーシャルワークである。スクールソーシャルでは基本的な相談援助技術に加え、教職員や各関係機関との連携した支援が重要である。この授業ではスクールソーシャルワークの基礎と学校現場の理解を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					児童生徒が抱える問題について学び、その内容を説明することができる。	
		○				児童生徒が抱える様々な問題のそれぞれの原因や背景について説明することができる。	
		○				問題種別ごとに連携すべき関係機関を説明することができる	
				○		新聞やニュース等の報道に関心を持ち、授業に関連する社会動向を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房「よくわかるスクールソーシャルワーク」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション スクールソーシャルワークとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	スクールソーシャルワーカーの現状				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	なぜスクールソーシャルワークが必要なのか				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	スクールソーシャルワークの歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	学校教育の特徴①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	学校教育の特徴②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	教育(学校)が連携する機関とその機能①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	教育(学校)が連携する機関とその機能②(博多区役所?)				福岡市HP等で場所の確認をしておくこと	
	9	教育(学校)が連携する機関とその機能③(博多区役所?)				福岡市HP等で場所の確認をしておくこと	
	10	スクールソーシャルワークの展開過程①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	スクールソーシャルワークの展開過程②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	ケース会議について①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	ケース会議について②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	前期授業内容の復習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	前期授業内容の復習(特に前期テストに関わる部分)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する (2)定期試験(筆記)を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		○		60%
	小テスト						40%
	宿題・レポート	○	◎		○		
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ(専門)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	池田 将樹		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	施設、精神科病院にて精神保健福祉士として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神保健福祉士の役割は、特に多職種との連動が必要になる精神科領域では、利用者が生活を送る上で欠かせない存在である。利用者が病気や障害特性を抱えながらも「本人らしい当たり前の生活」を目指していくために、精神保健福祉士は基本的な権利擁護の考え方や知識を身につける必要がある。この授業では、利用者を支援するうえで専門的な知識習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					相談援助をの基本となる権利擁護について学び、権利侵害が起こる原因を説明することができる。	
		○				権利擁護の考え方を知ったうえで、多職種との連携・協力の重要性を説明することができる。	
		○				権利擁護に関連した諸制度を3つ以上説明することができる。	
		○				利用者との普段の関わりの中から、丁寧な意思決定支援を意識することができる。	
			○			アセスメントの重要性について考え、利用者の変化に気づく観察の視点へと応用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の対象①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の対象②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の目的と意義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	精神保健福祉分野における相談援助の体系-相談援助活動の現状と今後の展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	5	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲-専門職の概念			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲-専門職の概念とその業務			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	7	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-権利擁護の概念と範囲①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-権利擁護の概念と範囲②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-権利擁護の概念と範囲③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	11	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲-専門職倫理と倫理的ジレンマ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-援助を支える理論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	13	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-援助の機能と概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-多職種連携・チームアプローチの意義と概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携-多職種連携における精神保健福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2) 定期試験(筆記)を実施する。 (3)授業への参加状況(グループワーク時の発言)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意							